

令和 3 年 1 月 28 日

基本施策1及び3 答申骨子案

基本施策1 誰もが学べる環境づくり

【重点施策】新たな参加を促すための学習環境づくり

新たな参加や多様な市民層への参加を促すための学習環境づくりには、生涯学習活動への参加が少ない層の需要の掘り起こしや、対象者ごとの興味・関心の方向性、参加しやすい形を把握することが必要である。

1 「学び返し」の持続的見直し

学習環境の充実を図り、新たな参加を促すために、常日頃からの問題の発見と改善及び評価と改善のサイクル—PDCA サイクル¹を実施することが必要である。府中市に於いて、学習機会を提供している施設は数多くあるが、まずは生涯学習の拠点である「府中市生涯学習センター」で行われている学習活動の状況を分析し、関心の高い講座について、今まで参加できなかった人たちも参加しやすい時間帯や方法での開催の見直しをすることで、具体的に活動を変化させていけるようにし、学習の場の機能改善を行うべきではないか。

2 「共助・自助」の体制と市民のコミュニティスキル(合意形成技能)の向上

個人の抱える課題の多様化に伴い「共助・自助」の考えが以前よりも大切になってきている。「共助・自助」をキーワードにしながら、地域の課題にあたるには、地域を活性させる必要性がある。このために市内各地域において、これまでは「学び返し」の役割を無意識に固定してしまっていたものを、今後はその固定してしまっていた役割を超えて、「学び返し」を実践することが求められるのではないか。その上で、地域内での学習活動の活発化を進めなければならない。そのためには、府中市民の「コミュニティスキル」(相互交流をするにあたっての意見交換の技能や合意形成の技能)の獲得が不可欠ではないか。そこで、まずは現在行われている「生涯学習ファシリテーター養成講座」の講座内容に「コミュニティスキル」に関するものを組み込むのはどうだろうか。養成講座を修了した方が自身の圏域の文化センターを「場」として活動などをすることで、市民相互のコミュニティスキルの向上にも将来的につながっていくのではないか。

¹ PDCA サイクルとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)を繰り返すことによって、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のことです。

基本施策3 生涯学習を支える基盤の整備

【重点施策】生涯学習の広報の強化

若年層や就労者層、新しい住民は、市からの生涯学習に関する情報が得られないとの声があったため、様々な媒介を活用した広報の強化を目指す。

1 広報活動の多様化の推進

若年層から老年層まで漏れなく伝わるよう利用者側が最小限の手間で活用することができるような広報が必要であり、アナログメディアとデジタルメディアのハイブリッド型の広報が求められる。とくにデジタル技術を積極的に活用し、広報に限らず、「学び返し」の価値化にも応用すべきである。ちなみに、国内でのインターネットサービス開始は、平成 4(1992)年であり、既に平成時代もおわり、デジタルメディアの利用は我々にとって必然であって不可欠でもある。なお、デジタル知識や操作技能が未習であるのなら、学習の対象(「コミュニティスキル」のひとつ)として積極的に身に付け、「学び返し」を意識した一市民として、学びにつながる様々な情報を入手することが求められるのではないか。さらに、その入手した情報を市民同士で相互に交換することで、広報活動をより充実したものに出来るため、市民全体の能力向上を図るべきではないか。

2 具体的な広報活動の実施

動画配信サービスや、SNSの積極的な活用を行うことができる。例えば、府中市生涯学習センターで実施される講座の紹介動画を作成することなどが考えられる。こうしたメディアを積極活用して情宣すべきではないか。なお、コンテンツ作成は、府中市生涯学習センター内の「生涯学習ボランティア 悠学の会」や、関係課、などの各関係各所と連携をして製作することも検討すべきだろう。そうしたコンテンツは、「学び返し」の好例として捉えることができる。基本施策 1 や基本施策 2 との有機的に連動させ、学習活動の一環として広報を推進することにも注力すべきだろう。